

## 平成29年度への準備を！

西部教育事務所 管理主監 黒澤 英樹

### 【今年度の研修の成果を生かして】

4月に管理主監という職について1年が終わろうとしています。この間、学力向上、安全教育、人権教育、特別支援教育等々、様々な研修や指定校の発表を開催させていただき、先生方の分科会や授業研究会の様子を見せていただきました。

「最近の中学生は、自転車に乗るのが上手くない。自転車の乗り方について、計画的に指導していくことが大切だ。」「私の学校では、学習過程スタンダードの共通理解が、まだ不十分だと思っています。」「自分の学校の先生方の人権感覚はバラバラなんだ。子供たちの呼び方くらい統一しなければ…。」

このような協議の様子から、学校により取組に違いがあるものの、参加した先生方には自他の学校よさや課題を真摯に話し合い、自校の改善について考えていただいたと感じました。

教育は、様々な分野で変革が進められようとしています。西部教育事務所等の様々な研修を生かし、管理職や先生方の力により、来年度に向けて少しでも学校が変わっていくことを期待したいと考えています。

### 【組織的な取組を】

全国学力・学習状況調査の結果が返却された際、学校訪問等での様子も踏まえて、全校体制による学力向上の視点から、成果を上げている学校の取組をまとめました。

そのポイントの1つ目として、「課題や方策を理解し、組織的に取り組んでいますか？」という項目を挙げました。組織的に取り組むということは、平たく言えば「全ての先生が共通の目標を達成するために、共通の手立てでアプローチしている」ということだと思います。例えば、校内研修

で「子供たちの話し合い」を手立てに学力向上を進めようとしているなら、全ての先生が、同じように、日々の授業を通して、子供たちが話し合いをするような授業に取り組んでいるかということだと考えます。「A先生は熱心だが、B先生はさほどではない」ということでは、校内研修で取り組んでいても「組織的」とは言えないでしょう。各学校で組織的に取り組むべきことを十分考えていただき、全教職員で共通理解を図っていただければと思います。

組織的に取り組むことにより、子供たちも「〜〜〜することは当然だ」と考えるようになり、それが、学校文化となっていくと思います。



### 【次期学習指導要領に向けて】

「10年後には、かなりの仕事がロボット化されている」と言われますが、車の自動運転が目前に迫っている昨今、これはあり得ないことではないかもしれません。このような中、「学びの地図」と称される次期学習指導要領が、今年度末に告示され、来年度は周知の予定となっています。

キーワードは「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」などになると思いますが、表面的な取組の形だけでなく、その趣旨を十分理解し、教育活動を見直すきっかけとしていただければと考えています。

ロボットをつくるのは人であり、人を育てることが教師の役割です。よりよい未来を築けるような人を育てるべく、夢をもって平成29年度に向かいましょう。